

## 4. 科研費トピックス

### 科学研究費助成事業 平成27年度予算案の説明

〔 H27助成額:2,318億円【対前年度 13億円増】(※)  
H27予算案:2,273億円【対前年度△3億円減】 〕

科研費はすべての研究活動の基盤となる「学術研究」を幅広く支援することにより、科学の発展の種をまき芽を育てる上で大きな役割を果たしており、前年度より13億円増の助成額を確保するとともに、以下の改善を図ります。

※平成23年度から一部種目について基金化を導入したことにより、予算額(基金分)には、翌年度以降に使用する研究費が含まれることとなったため、予算額が当該年度の助成額を表さなくなったことから、予算額と助成額を並記しています。

#### ◆国際社会における我が国の学術研究の存在感を向上させるための国際共同研究や海外ネットワーク形成の促進

- ① 科研費に採択された若手研究者が一定期間海外の大学や研究機関で国際研究ネットワークを形成することを促進します。
- ② 新学術領域研究に「国際活動支援班」を創設し、我が国が強い研究領域をベースとした国際共同研究の推進や海外ネットワークの形成(国際的に評価の高い海外研究者の招へいやポスドクの相互派遣等)を促進します。
- ③ 海外の優秀な日本人研究者の予約採択のための仕組みを構築します。

#### ◆細目にこだわらない分野融合的研究を引き出す新しい審査方式の先導的試行(特設分野研究)の充実

- 特設分野研究の特枠化を図ります。

#### 平成27年度予算案における「学術研究助成基金」の交付対象の見直し

研究費の成果を最大化するため、平成27年度新規採択分より「学術研究助成基金」の交付対象を以下のとおり見直します。

- 拡大・融合する学術研究のフィールドを積極的に押さえ国際的なプレゼンスを確立するため、科研費の質を高める国際共同研究や分野融合研究について、投資効果を最大化するために基金を活用します。
- 研究者の研究時間を確保するとともに、研究費の柔軟性を確保するため、基金・補助金の混合種目(「基盤研究(B)」、「若手研究(A)」)を解消して補助金を交付することにより、複雑、煩雑な制度の簡素化を図ります。